

◆ 施設や会場により、検体検査委託先が異なり、検査法・基準値等が異なる場合があります。

種別	検査項目	異常を指摘されたら	高い場合																																
			異常値の場合、疑われる病気や状態 ⚠ 専門医療機関で診断を受けてください。																																
腫瘍マーカー	CEA	内科・消化器内科 呼吸器内科・婦人科 超音波、CT、MRI などの画像検査	腫瘍マーカー測定だけでがんの診断はできません。がんがあっても数値が上がらない場合や、がんがなくても数値が上がる場合があります。このため画像診断等と組み合わせて検査されることをお勧めいたします。 ※CA125 生理中・妊娠中は高値に、閉経後・卵巣摘除後は低値になる傾向があります。 ※エラスターゼ 膵臓がんで陽性になることがあります。 ※SCC 子宮頸がんや肺がん(主に扁平上皮がん)で陽性になることがあります。 ※シフラ 肺がん(主に扁平上皮がん)で陽性になることがあります。 食道がん SCC 肺がん シフラ SCC CA125 CEA 肝細胞がん PIVKA-II AFP 胆のう・胆管がん CA19-9 子宮頸がん SCC 前立腺がん PSA 乳がん CA125 CEA 胃がん CEA 膵がん CA125 CA19-9 エラスターゼ1 CEA 大腸がん CEA 卵巣がん CA125																																
	シフラ	呼吸器内科																																	
	CA19-9	内科・消化器内科																																	
	SCC	内科・消化器内科 呼吸器内科・婦人科																																	
	エラスターゼ 1	消化器内科																																	
	PSA	泌尿器科																																	
	CA125	婦人科・消化器内科																																	
種別	検査項目	異常を指摘されたら	高い場合	低い場合																															
胃部	ペプシノゲン	消化器内科 胃内視鏡検査	—	ペプシノゲンⅠやⅡ、Ⅰ／Ⅱを組み合わせる判定： 萎縮性胃炎、消化性潰瘍、胃がんなど																															
	ヘリコバクター ピロリ抗体IgG		胃がん、慢性胃炎、十二指腸潰瘍、胃潰瘍	—																															
	胃がんリスク 検診(ABC検診)		ペプシノゲンとヘリコバクターピロリ抗体検査の結果から、右図のように分類します。胃がんリスクはB<C<D群の順に高リスクとなります。リスクに応じて内視鏡検査や胃部X線検査が必要です。	<table><tr><th colspan="2">ABC分類</th><th colspan="2">ヘリコバクターピロリ抗体</th></tr><tr><th colspan="2"></th><th>(-)</th><th>(+)</th></tr><tr><td rowspan="2">ペプシノゲン</td><td>(-)</td><td>A群</td><td>B群</td></tr><tr><td>(+)</td><td>D群</td><td>C群</td></tr></table>	ABC分類		ヘリコバクターピロリ抗体				(-)	(+)	ペプシノゲン	(-)	A群	B群	(+)	D群	C群																
ABC分類		ヘリコバクターピロリ抗体																																	
		(-)	(+)																																
ペプシノゲン	(-)	A群	B群																																
	(+)	D群	C群																																
感染症	抗体価 (風疹、麻疹、 おたふく、水痘)	予防接種は、 お住まいの地域の 保健所、医院、病院等 でご相談ください。	—	予防接種をしましょう。 ご自身と共に、大切な家族への感染や職場での流行を防ぎましょう。																															
甲状腺機能	TSH(甲状腺刺激 ホルモン)	内分泌代謝内科 耳鼻咽喉科	甲状腺や脳下垂体などの疾患が疑われます。																																
	FT3(遊離トリヨード サイロニン)																																		
	FT4(遊離サイロ キシニン)		免疫系の甲状腺疾患(バセドウ病、甲状腺機能低下症) などが疑われます。	—																															
	抗TPO抗体																																		
	抗Tg抗体																																		
アレルギー	吸入系アレル ゲン19項目、 食べ物系アレル ゲン20項目 (右表参照)	症状により、 呼吸器内科、 耳鼻咽喉科 皮膚科など	陽性を示すアレルゲンが症状の原因となっている場合があります。 アレルギーの診断には専門医への受診が必要です。																																
	<table><tr><th colspan="2">吸入系 その他アレルゲン</th><th colspan="2">食べ物系アレルゲン</th></tr><tr><td>室内塵</td><td>ヤケヒョウヒダニ、ハウスダスト</td><td>卵</td><td>卵白、オボムコイド</td></tr><tr><td>動物</td><td>ネコ、イヌ</td><td>牛乳</td><td>ミルク</td></tr><tr><td>昆虫</td><td>ガ、ゴキブリ</td><td>小麦</td><td>小麦</td></tr><tr><td>樹木</td><td>スギ、ヒノキ、ハンノキ、シラカンバ</td><td>豆・穀・種実類</td><td>ピーナッツ、大豆、ソバ、ゴマ、米</td></tr><tr><td>草木類</td><td>カモガヤ、オオアワガエリ、ブタクサ、ヨモギ</td><td>甲殻類</td><td>エビ、カニ</td></tr><tr><td>空中真菌</td><td>アルテルナリア(ススカビ)、アスペルギルス(コウジカビ)</td><td>果物</td><td>キウイ、リンゴ、バナナ</td></tr><tr><td>真菌その他</td><td>カンジダ、マラセチア、ラテックス</td><td>魚・肉類</td><td>マグロ、サケ、サバ、牛肉、鶏肉、豚肉</td></tr></table>		吸入系 その他アレルゲン		食べ物系アレルゲン		室内塵	ヤケヒョウヒダニ、ハウスダスト	卵	卵白、オボムコイド	動物	ネコ、イヌ	牛乳	ミルク	昆虫	ガ、ゴキブリ	小麦	小麦	樹木	スギ、ヒノキ、ハンノキ、シラカンバ	豆・穀・種実類	ピーナッツ、大豆、ソバ、ゴマ、米	草木類	カモガヤ、オオアワガエリ、ブタクサ、ヨモギ	甲殻類	エビ、カニ	空中真菌	アルテルナリア(ススカビ)、アスペルギルス(コウジカビ)	果物	キウイ、リンゴ、バナナ	真菌その他	カンジダ、マラセチア、ラテックス	魚・肉類	マグロ、サケ、サバ、牛肉、鶏肉、豚肉	
吸入系 その他アレルゲン		食べ物系アレルゲン																																	
室内塵	ヤケヒョウヒダニ、ハウスダスト	卵	卵白、オボムコイド																																
動物	ネコ、イヌ	牛乳	ミルク																																
昆虫	ガ、ゴキブリ	小麦	小麦																																
樹木	スギ、ヒノキ、ハンノキ、シラカンバ	豆・穀・種実類	ピーナッツ、大豆、ソバ、ゴマ、米																																
草木類	カモガヤ、オオアワガエリ、ブタクサ、ヨモギ	甲殻類	エビ、カニ																																
空中真菌	アルテルナリア(ススカビ)、アスペルギルス(コウジカビ)	果物	キウイ、リンゴ、バナナ																																
真菌その他	カンジダ、マラセチア、ラテックス	魚・肉類	マグロ、サケ、サバ、牛肉、鶏肉、豚肉																																

転載：Thermo Fisher Diagnostics K.K.

種別	検査項目	異常を指摘されたら	高い場合	低い場合
 異常値の場合、疑われる病気や状態 ⚠ 専門医療機関で診断を受けてください。				
造血機能など	赤血球数	内科・血液内科	多血症など	貧血
	血色素量			
	Ht		出血、慢性骨髄性疾患	血小板凝集、慢性肝炎、肝硬変、血小板減少性紫斑病
	血小板数			
	白血球数		ストレス、喫煙、妊娠、細菌感染、炎症、白血球病など	ウイルス感染、造血能低下、脾機能亢進など
肝機能	AST(GOT)	内科・消化器内科	AST>ALT: 急性肝炎初期、アルコール性肝障害、肝硬変、肝がん、心筋疾患・筋疾患、溶血など	
	ALT(GPT)		ALT>AST: 急性肝炎、慢性肝炎、過栄養性脂肪肝など	
	γ-GT(γ-GTP)		アルコール性肝障害、慢性肝炎、脂肪肝など	
	ALP		脂肪肝、骨疾患、甲状腺機能亢進症、胆汁うっ滞、胆管炎、妊娠など	亜鉛欠乏など
	アルブミン		—	低栄養、炎症、肝硬変、ネフローゼ症候群など
	総蛋白		脱水、膠原病、慢性感染症など	ネフローゼ症候群、栄養不良、吸収不全症候群、肝硬変など
	A/G比		液性免疫不全など	低栄養、炎症、肝硬変、ネフローゼ症候群、肝炎、慢性感染、膠原病など
	M2BPGi※1		慢性肝炎、肝硬変など肝臓の線維化	—
	FIB-4index		—	—
腎機能	尿素窒素	内科・腎臓内科	脱水症、高タンパク食、けが、脱水症、痛風、尿毒症、腎障害など	低タンパク食、妊娠、肝硬変、多尿など
	クレアチニン		脱水症、腎障害など。	筋肉量減少(筋疾患や低栄養)、肝障害、妊娠など
	eGFR		—	腎機能低下
痛風	尿酸	内科	肥満、飲酒、高プリン体食(動物の内臓、魚の干物など)、腎障害など	低尿酸血症
糖代謝	血糖	内科・糖尿病内科 内分泌代謝内科	糖尿病、内分泌疾患など	糖尿病治療薬、アルコール多飲、胃切除後症候群、内分泌疾患など
	HbA1c		糖尿病など	肝硬変、貧血など
	インスリン		肥満、糖尿病(インスリンが出すぎるタイプ)、肝疾患、末端肥大症、インスリン産生腫瘍など	糖尿病(インスリンが出ないタイプ)、下垂体機能低下、副腎機能低下、低血糖など
	HOMA-R		ご自身のインスリンの効き具合を推測します。	
	1,5-AG		—	糖尿病など
	尿中微量アルブミン		腎障害、糖尿病性腎症など	—
膵機能	アミラーゼ	消化器内科	膵疾患、唾液腺疾患、腎不全など	膵や唾液腺の摘出や機能低下
	リパーゼ		膵疾患、膵がん(初期)など	膵疾患、肝疾患など
脂質機能	LDL-ch	内科 内分泌代謝内科	脂質異常症、糖尿病、甲状腺機能低下症、閉塞性黄疸、ネフローゼ症候群など	低栄養、肝疾患、甲状腺機能亢進症など
	HDL-ch		長期多量飲酒など	肥満、運動不足、喫煙、糖尿病、家族性脂質異常症など
	中性脂肪		高カロリー食、肥満、糖質過剰摂取、糖尿病、アルコール多飲、脂肪肝、家族性脂質異常症など	低栄養、甲状腺機能亢進症、家族性脂質異常症など
	アポA-1		高HDL血症	HDL-chの変動を示しています。 その他、動脈硬化症、糖尿病、慢性腎不全、肝疾患など
	アポB		LDL-chの変動を示しています。その他、ネフローゼなど	—
	アポE		中性脂肪の変動を示しています。 その他、ネフローゼ、原発性胆汁性肝硬変、糖尿病、閉塞性黄疸等の胆汁うっ滞など	—
心臓	NT-ProBNP	内科・循環器内科	心不全など(心臓病の他、心臓疾患が原因の脳卒中リスクも上がると予測されます。)	—
	高感度CRP		動脈硬化や狭心症など	—
栄養	25-OHビタミンD	生活改善	ビタミンDは脂溶性ビタミンであり、摂りすぎても尿中に排泄されにくいいため、過剰摂取に注意しましょう。	ビタミンD不足によるカルシウムの吸収低下などが考えられます。 ビタミンDが豊富な食材(鮭や背の青い魚、きのこ類や海藻など)を日々の食事に積極的に取り入れましょう。

※1 2025年6月検査試薬の変更により基準値を変更しました。

種別

検査項目

検査内容

リスク判定

LOX-index

LOX-1

LAB

LOX-index®の値をもとに高リスク群、中高リスク群、中リスク群、低リスク群の4段階でリスクを評価しています。

sLOX-1の値とLABの値を掛け合わせたものがLOX-index®の値です。

LOX-1は血液から異物を取り除く働きをしている物質です。このsLOX-1の値が高い方は、血管内での炎症が進んでいると考えられます。

LABは、悪玉コレステロール(LDL)が酸化し、より悪玉化した状態です。LABの値が高い方は、酸化ストレスが進んでいると考えられます。

LOX-index®(ロックスインデックス)とは

動脈硬化は自覚症状がないまま進行し、ある日突然脳梗塞・心筋梗塞を発症してしまう怖い病気です。ロックスインデックスは、血液中の超悪玉コレステロール(LAB)とその担い手であるsLOX-1を測定・解析することで将来の脳梗塞・心筋梗塞の発症リスクを評価する血液検査です。検査結果で、脳梗塞・心筋梗塞のリスクがあれば予防対策を行い、早い段階からリスク回避することに役立てて頂けます。

発症リスクのレベルを判定

項目名

参考基準値

検査値

低

正

高

検査値

検査値

リスク判定

LOX-index

LOX-1

LAB

低

325

116

2.8

今回のLOX-index検査の結果では、低リスク群に相当すると判定されました。日本人約2,500名を対象とした約11年間のコホート研究から、低リスク群の方は脳梗塞・心筋梗塞の発症リスクが他のランクの方よりも統計的に低い傾向であるとされています。動脈硬化が原因となる脳梗塞や心筋梗塞は、自覚症状がほとんどないまま進行し、発症に至ります。脳梗塞・心筋梗塞は生活習慣の改善で予防することができると考えられる高い疾患です。に、今まで以上に、今後も健康にご受検いただくことをおすすめします。

検査結果に対する総合的なコメントや改善の方向性を提案

動脈硬化のメカニズム



発症リスクのレベル

高リスク群の場合	すでに何らかの動脈硬化性疾患が発生している可能性があり、将来に心筋梗塞／脳梗塞を発症する危険性があります。医療機関にご相談の上、血管の状態を詳細に検査することをお勧めします。
中高リスク群の場合	高脂質血症、高血圧といった基礎疾患や動脈硬化性疾患の危険性があります。医療機関にご相談の上、血管の状態を詳細に検査することをお勧めします。
中リスク群の場合	差し迫って危険性はありませんが、高脂質血症、高血圧といった基礎疾患や動脈硬化性疾患になる可能性があります。人間ドック・健康診断を同時に受診された方はその結果も踏まえて医療機関にご相談ください。本検査単独で受診された方は、医療機関にご相談の上で、2次検査を受けるのか、生活習慣の改善に努めてください。
低リスク群の場合	引き続き定期的にLOX-index®を受診し、動脈硬化に伴う疾病リスクを確認してください。

LOX-1を改善するために

※低(理想的な値):1~270pg/mL

基礎疾患をお持ちの方

基礎疾患の治療に専念しましょう。

高血圧や糖尿病などの疾患によって、LOX-1の値は高くなるといわれています。

これらの疾患をお持ちの方は治療に専念することで、脳梗塞・心筋梗塞の発症リスクを下げるのが期待できます。

基礎疾患がない方

減塩・腹八分目の食事を心掛けましょう。

血圧を下げるような食事療法は、LOX-1の値を下げることを期待できます。普段の食生活から減塩、腹八分目を心掛けましょう。

禁煙と適量の飲酒を心掛けましょう。

喫煙はLOX-1の発生を促進してしまいます。また、過度なアルコール摂取はカロリーオーバーに陥る危険性があるので、適量の飲酒を心掛けましょう。

日々の生活の中に運動を取り入れましょう。

肥満の状態では活性酸素が高まり、体内で炎症が進んでしまうため、適度な運動で減量しましょう。

別表

抗酸化物質を含む食材

果物	ブルーベリー	いちご	キウイ
	オレンジ	ぶどう	グレープフルーツ
野菜	トマト	ほうれん草	タマネギ
	キャベツ	ブロッコリー	
肉・魚介類	鶏肉	レバー類	エビ
	青魚	うなぎ	

LABを改善するために

※低(理想的な値):0.1~3.3μgcs/mL

基礎疾患をお持ちの方

基礎疾患の治療に専念しましょう。

脂質異常症や糖尿病などの疾患によって、LABの値は高くなるといわれています。これらの疾患をお持ちの方は治療に専念することで、脳梗塞・心筋梗塞の発症リスクを下げるのが期待できます。

基礎疾患がない方

抗酸化物質を含む食材を積極的に摂りましょう。

別表の食材には抗酸化作用のあるビタミンA、C、E、βカロテン、葉酸、リコペン、コエンザイムQ10などの栄養素が含まれています。バランスよく摂るようにしましょう。

禁煙と適量の飲酒を心掛けましょう。

喫煙は体内の酸化ストレスを促進します。体内の酸化ストレスが進むことが動脈硬化につながりますので、禁煙をお勧めします。またアルコールを代謝する際に大量の活性酸素を発生させますので、抗酸化作用のある食材と一緒に摂るように心掛けましょう。